

国指定史跡「荻外荘（近衛文磨旧宅）」復元工事報告書

令和 8 年 3 月

杉並区



(日暮雄一 撮影)

序 文

荻外荘は、昭和戦前期に総理大臣を3度務めた政治家・近衛文麿が昭和12（1937）年から昭和20（1945）年に居住した邸宅です。この邸宅は近衛の政治の場として機能し、第二次近衛内閣の基本方針を確認した「荻窪会談」（昭和15（1940）年7月19日）や、中国からの陸軍撤兵について話し合った「荻外荘会談」（昭和16（1941）年10月12日）などが行われました。また終戦後には、近衛が自決により人生の幕を引いた場でもあります。

近衛の没後は、次男の通隆氏をはじめとする近衛家が居住していましたが、平成24（2012）年の同氏の逝去を契機として、地元住民より荻外荘保存の要望が杉並区に提出され、杉並区は平成26（2014）年に、荻窪に残る荻外荘の土地と建物を取得しました。平成28（2016）年3月には、日米開戦前の重要な会談が行われた場所として、国史跡に指定されています。

荻外荘には現代まで、度重なる改修がなされてきました。杉並区では、昭和期の政治の転換点となった重要な会談等が数多く開かれた昭和15～16年の姿へと復元し、また荻窪の歴史と共に育まれた豊かなみどりを享受できる場とすることを目的とする整備事業を実施しました。この事業には、昭和35（1960）年に豊島区へ移築された荻外荘の建物東側部分を取得し、荻窪へ再移築するという稀有な工事も含まれています。

また近衛が自決した書斎は、近衛家の人々が現代まで大切に守ってきた部屋です。戦時中の改修によって生まれた書斎は、近衛の最期の決断の場であるという歴史的価値を鑑み、今回の復元に際し文化庁と協議を行い、そのままの形で保存することができました。復元に伴うこうした取り組みにより、荻外荘の文化財的価値を最大限に高め、それらを将来に伝えていくことが可能になりました。

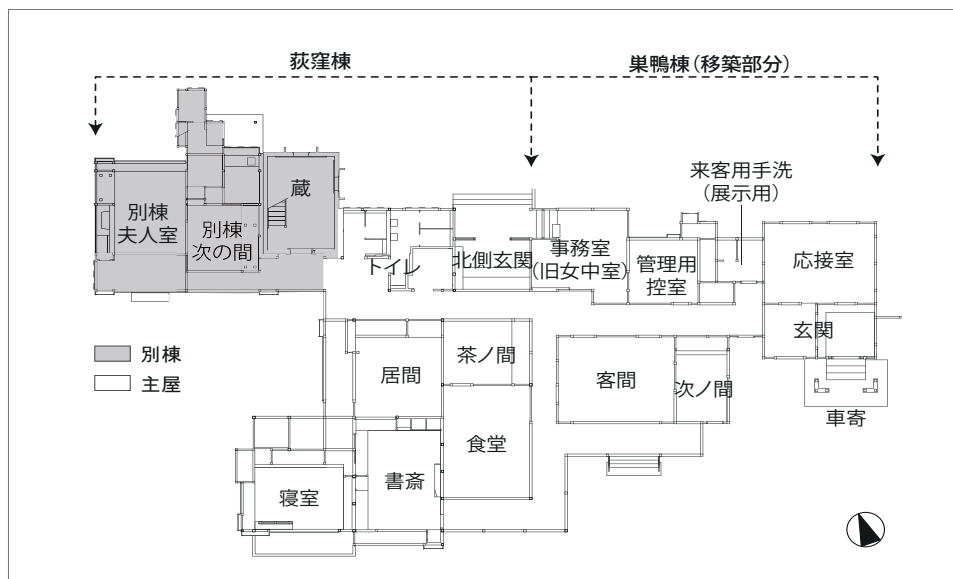
このたびの復元整備を経て、令和6（2024）年12月より一般公開を開始しました。荻外荘が、戦前の昭和史に触れ、戦争と平和について考えるきっかけの場となれば幸いです。

ご指導いただいた文化庁、東京都教育庁をはじめ、有識者の方々、工事の設計監理や施工業者の皆様、並びにその他関係機関の皆様に心から感謝を申し上げます。

令和8年3月
杉並区教育委員会

例 言

1. 本書は、史跡荻外荘（近衛文麿旧宅）復元整備事業の一環として刊行するものである。
2. 編集にあたっては、復元整備事業の概要のほか工事中の調査事項、維持管理および各種資料をまとめた。
3. 本文中の表示寸法はメートル法を主に用い、必要に応じて一部に尺貫法を用いた。
4. 写真は古写真、復元整備工事前、工事完了後、工事中の記録および調査事項に関する資料等を掲載した。
5. 棟名称は荻窪に現存する棟を「荻窪棟」、移築されていた部分を「巣鴨棟」と称する。本文中の部屋名称は下記の名称を原則とする。なお、別棟の「夫人室」と「次の間」については、昭和35（1960）年の図面表記を用いた。



6. 基本計画、基本設計、実施設計及び工事監理は、株式会社文化財保存計画協会に委託した。
7. 本報告書の編集は杉並区教育委員会が行った。執筆者・写真撮影者は以下のとおりである（敬称略）。

本文執筆

下記以外

杉並区教育委員会生涯学習推進課文化財係

第4章・第5章（第1節～第3節1・第4節）・第7章・第8章・資料編

株式会社文化財保存計画協会 主任研究員 柳澤礼子

資料編 寄稿

株式会社 竹中工務店 設計本部 アドバンストデザイン部 伝統・レガシー建築グループ

チーフエキスパート 山野敬史

写真撮影（五十音順）

株式会社竹中工務店 東京支店、株式会社トータルメディア開発研究所、株式会社日暮写真事務所
日暮雄一、株式会社文化財保存計画協会、株式会社武蔵文化財研究所、杉並区教育委員会生涯学習
推進課文化財係、特定非営利活動法人 井草文化財研究所

8. 本事業にあたっては下記の諸機関・方々のご教示・ご協力を得た（敬称略）。

文化庁、東京都教育庁地域教育支援部管理課、近衛家、入澤家、陽明文庫、後藤治（工学院大学総合研究所教授）、内田青蔵（神奈川大学建築学部特任教授）、松野浩一（一級建築士事務所 松野浩一建築研究所）、亀山章（東京農工大学名誉教授）、刑部芳則（日本大学商学部教授）

国指定史跡「荻外荘（近衛文麿旧宅）」

復元整備工事報告書 目次

第1章 歴史と概要…………… 1

第1節 荻外荘の歴史

第2節 土地の変遷

第3節 建物の変遷

第4節 史跡の指定

(1) 指定通知〈文部科学大臣〉

(2) 官報告示

第5節 荻外荘の文化財的価値と構成要素

(1) 本質的価値

(2) 構成要素

第2章 復元整備事業の概要…………… 5

第1節 事業の経緯

第2節 整備の方針

第3節 事業の組織

(1) 事業者

(2) 有識者

(3) 文化財行政機関

(4) 発掘調査

(5) 工事関係者

(6) 展示物製作

第4節 事業工程

第5節 事業費

(1) 事業費

(2) 補助額

第3章 復元根拠資料…………… 11

第1節 発掘成果の概要と復元整備

(1) 敷地南側の低地部

(2) 敷地北側の台地部

第2節 古写真

(1) 外観

(2) 玄関内観

(3) 応接室

(4) 客間

(5) 広縁

(6) 食堂

(7) 書斎

(8) 寝室

(9) 居間

(10) 茶ノ間

(11) 正門

(12) 南側庭園

第3節 測量図・図面類

第4章 設計…………… 41

第1節 基本的な考え方

第2節 復元設計と整備設計

(1) 復元整計

(2) 基礎遺構と配置の復元

(3) 整備設計

(4) 遺構保護の考え方

(5) 配置および平面

(6) 立面

(7) 公開・活用計画

(8) 動線計画

第3節 耐震診断と構造補強

(1) 構造診断と計算の方針

(2) クライテリアの設定

(3) 診断結果および補強方針

(4) 主屋の補強案

(5) 別棟の補強案

(6) 蔵について

(7) 建物の構造性能評価

第4節 設備設計

(1) 電気設備

(2) 防災設備

(3) 機械設備・給排水衛生設備

(4) 換気設備

(5) 給水設備

(6) 排水設備

第5節 内装および家具調度の復元

(1) 家具および調度の復元概要

(2) 家具

(3) 照明器具

第6節 展示設計

(1) 展示活用のストーリー

(2) 展示設計の考え方とプロット図

(3) 展示製作品（調度品）

- (4) 展示製作品
- (5) 解説映像
- (6) ARおよびVRによる解説

第7節 庭園および外構

- (1) 整備の基本的な考え方
- (2) ゾーニング
- (3) 動線

第5章 調査…………… 73

第1節 移築建物および現存建物の調査

- (1) 建物部材調査
- (2) 設計変更一覧

第2節 内装復元に伴う調査

- (1) 古写真カラー化

第3節 調査からの考察

- (1) 創建時形式の推定

第4節 庭園調査

- (1) 庭園の変遷
- (2) 近衛文麿居住期の庭園推定

第6章 現状変更…………… 98

第1節 現状変更の概要

第2節 現状変更

第3節 計画変更

- (1) 寝室での構造用合板の設置
- (2) 書斎縁側での沈下対策

第7章 復元工事…………… 100

第1節 工事概要と実施工程

第2節 工事実施仕様

- (1) 仮設工事
- (2) 解体工事
- (3) 土工事
- (4) コンクリート工事
- (5) 地盤改良工事
- (6) 石工事
- (7) 木工事
- (8) 鉄骨工事
- (9) 屋根および樋工事
- (10) 建具および表具工事
- (11) 左官工事

- (12) 塗装工事
- (13) 内装工事
- (14) 家具工事
- (15) 外構工事
- (16) 設備工事

第8章 維持管理…………… 172

第1節 日常の維持管理と留意点

- (1) 木部の清掃
- (2) 濡縁
- (3) 木部の傷補修
- (4) 家具
- (5) 絨毯
- (6) 建具清掃・補修
- (7) 寄木
- (8) 唐紙
- (9) 屋根・樋の清掃・点検
- (10) 雨落ち
- (11) 庭園
- (12) 台風・雨対策

第2節 定期メンテナンス

- (1) 10年以内の定期点検
- (2) 保存修理対象となる長期的な修理

第3節 維持管理の材料と補修の連絡先

資料編

寄稿 伊東忠太の住宅観と楓荻荘（現・荻外荘）

着工前・完了後写真

巣鴨棟移築建物解体前写真

完成写真

施工写真

保管材リスト

図面